

課題に対する貸切バス事業者の意見

- ①運賃・料金の端数処理
- 「現行制度を維持してほしい」との意見が地域横断的に多数
 - 理由として、
 - (1)運賃改定後のここ数年において、下限にあわせて運賃を十円単位で提示することが少なく、千円単位で数値を丸めることが多い(ので、一円単にしても意味がない)
 - (2)計算や料金収受が煩雑になり現場(バス事業者・旅行者・お客様)が混乱する
- ②新たな年間契約特例
- 廃止を望む意見、割引率等制度の一部変更を望む意見、現状維持を望む意見、と意見が3つに分かれた
 - 年間契約を利用している運行の種類は、一般団体の旅行よりもスクールバス等の送迎が多数を占めたが、全運行の中で年間契約の運行が占める割合が低い事業者が大多数
- ③長距離逓減割引
- 多くの事業者が現状維持を希望
 - 一方で、長距離逓減の意見や、追加的に単価を上げる意見をあげた事業者も一定数にのぼった

貸切小委員会での取りまとめ

- ①運賃・料金の端数処理
- バス事業者だけではなく旅行者等においても現在の端数処理が定着しているなかで、今回の運賃・料金改定に際しては現状維持を希望
- ②新たな年間契約特例
- 年間契約を行っている事業者と行っていない事業者で意見が分かれており、今回の運賃・料金改定に際して業界としての意見統一は困難
 - 年間契約を行っている事業者は現状の制度維持を希望する意見が多い一方で、廃止を望む意見の一部として、当該年間契約の運行が安全コストを割っているのではないかとの懸念もあったため、今後、課題や問題が発生した際に迅速に対応できるよう、日本バス協会内でも継続的に審議していく
- ③長距離逓減割引
- 今回の運賃・料金改定に際しては、現状維持を希望する意見が多いため、現行制度を維持
 - 「(運輸局をまたぐような)長距離運行は運賃が高くなりすぎないか」との意見もあったため、日本バス協会内でも継続的に審議していく